



KIKUCHI YU

菊池 祐

アーレックス 代表取締役

「**経済がどう動いても
対応していけるよう
組織をより盤石に**」

菊池 祐 (きくち ゆう)
1982年、名古屋生まれ。2008年、愛知学院大学卒業。
同年、サーラ住宅入社。2012年、アーレックス入社。

デザイン性の高い一戸建て住宅を提供し続ける「アーレックス」(名古屋市)。昨年8月、菊池清創業社長から二代目社長に、菊池祐氏が就任した。二代目といえば線の細いタイプを想像しがちだが、確固としたポリシーを持つ骨太な人物だ。社長を引き継いで以来、30代ながら一歩一歩着実に歩んでいる。

アーレックスは分譲住宅、注文住宅を自社で設計・施工・販売している会社。「家は家族一人ひとりのカタチをデザインする舞台」と考え、同じ家を二度とつくりたくない。「いつも違う」、「毎回新しい」をテーマに、創業以来ハウスデザインを提案し続け、前社長(現・会長)の菊池清氏は、創業翌年の2007年から8年間で売り上げを10倍に伸ばした。

——前社長の手腕が知れわたる中、昨年8月に社長を引き継がれました。社長業についての思いやプレッシャーはありますか？

菊池 既に昨年1月から、実質的な社長業は任されていました。「できることに対してしっかり取り組んでいけばいい」と考えており、プレッシャーを感じたことはありません。気持ちの上では抵抗なく社長を引き継ぐことができました。会社の方針など自分で出した答えを確かめたい場合は、会長の自宅に行き確認をしたりしています。

大学卒業後、愛知県資本の建築会社で勤め、2012年2月にアーレックスに入社し、設計・工務・広報・総務の部長を兼任しました。入社後半年間、社内を見て回り、「このままではまずいのでは」と社内の改革を始めました。商品体系や設計部門を変え、組織人事もある程度自分が思う理想のカタチになりました。先代の社長からは自由に仕事をさせてもらったと思います。

その結果、改革を始めた年は売上を落としましたが、翌年には結果が出て前年分を挽回できました。現在は、年間300棟を建てて

おり、愛知県資本の未上場の同業会社では五本の指に入るのではないのでしょうか。

社長業はゴールが無い仕事です。9月、10月には次年度の商品を考えなければならぬし、今年度の数字も分析せねばならない。社長になって休みは月に1日程度。年に350日はスーツを着ています。

——就任してから、社員には、何を語りどんなことを伝えておられますか？

菊池 会社の全体会議では、社員に「真似される会社に」と言っています。

建築のトレンドは東京の半年遅れで名古屋にきますが、東京の真似をしても個性を大事にする名古屋の人には合わない。住まいに対して協調性を大事にする東京や大阪とは違うのです。この名古屋で「会社が目指すビジョンに向かいながら、真似されるような存在であるためにはどうしたら良いか」を考えると、「設計が挑戦し続ける環境を作れるか、いかに面倒くさい仕事に真摯に取り組めるか」ということが大切になります。社員には、アイデアを出し、面倒なことに取り組む続けることが仕事になり、給料が入るのだという「意識付け」をしています。

現在、社員は84人。少数精鋭で、意識を高く持ち仕事に取り組んでいます。人事では「もっとこういう家を作りたいんだ」と信念を持っている第二新卒や中途の社員を採用しています。その方が、よりやる気がある人を採用できるし、その思いを会社が実現させてあげられることもできるでしょう。

——社長からは、30代とは思えない思慮深さや骨太さを感じます。

菊池 若い頃はいろいろ経験させていただきました。中学時代はあまり学校に行かず遊んでばかりで、高校に入ったもののほどなく中退。18歳で夜間高校に入りなおしました。昼間は建設業の仕事、夜は高校へ行き、部活

動(野球)もやり、終わったら遊びに行くという生活。親に甘えようと思えば甘えられましたが、当時は「親の敷いたレールに乗りたくない」と思っていましたね。

夜間高校では、周囲が年下ばかりの環境に身を置いたことで、「人の成長を見るのが面白いのでは」と考えるようになり、教員資格をとるため卒業後は夜間大学へ。2年間で社会科教師の免許を取り愛知学院大学の経営学部編入しました。

こうした様々な経験の中で、人に対する接し方、人の上に立つことを自然と覚えていきました。社長という仕事にもプラスに働いていると感じます。大学卒業後に勤めた建築会社では、営業から引き渡しまで、全て一人で一貫して担当する大変な仕事でしたが勉強になりました。そして、色々な場面で運に助けられ、人に恵まれました。

今、こうして自分があるのは「運と人」に尽きると思います。

——アーレックスのこれからをどうお考えでしょうか

菊池 今は建築業界全体が危機感を持っており、今後はより組織力をつけて会社を強くしていこうと考えています。無理をすれば売り上げを伸ばし続けることができるでしょう。しかし無理を続けられれば、いずれは自転車操業の状態に陥ります。ならば厳しい状態になったとしても柔軟に対応できる組織作りが大切だと考えています。

近い将来、リニア新幹線を使えば東京まで40分で行けるようになります。リニア開通でより名古屋は発展すると思われませんが、この不透明な時代、どのような状況になっても対応できるように、足元を固めていきたいです。